

# ペレット堆肥を使った米作り（乾田）

乾田での酒米栽培では、牛ふんおよび鶏ふんペレット堆肥を基肥として入れることで、化学肥料の使用量を減らすことができます。

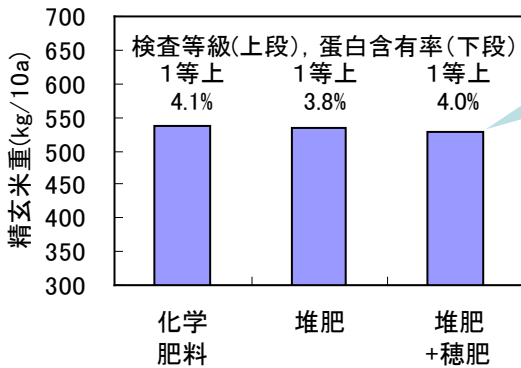
農水省 土壌由来温室効果ガス計測・抑制技術実証普及事業(H20～24年度)

## ○施用方法（品種八反錦1号）

基肥として水田（乾田）に10a当たり牛ふんペレット堆肥を窒素で7kg（現物400kg程度），鶏ふんペレット堆肥を窒素で5kg（現物210kg程度）施用します。

## ○収量・品質は同等，土中の無機成分も維持

乾田では堆肥成分の分解が進むので，穂肥なしでも収量・品質は化学肥料施用と同等です（図1）。5年の連用後でも無機成分は化学肥料と同程度に維持されます（図2，図3）。



堆肥施用のみで収量・品質は同等確保

堆肥施用のみでも地力，無機成分が維持できます

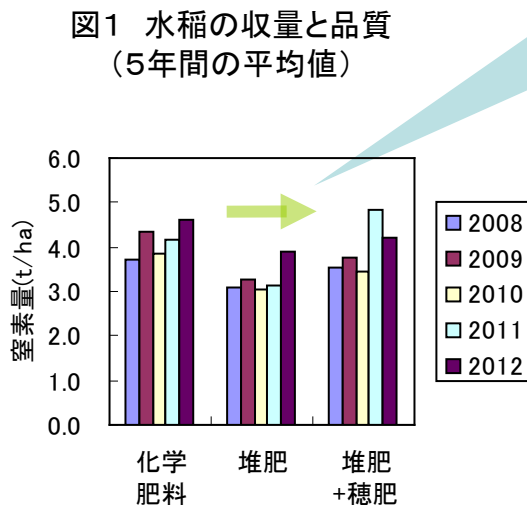


図2 作土中の窒素量推移 (平均深さ16cm)

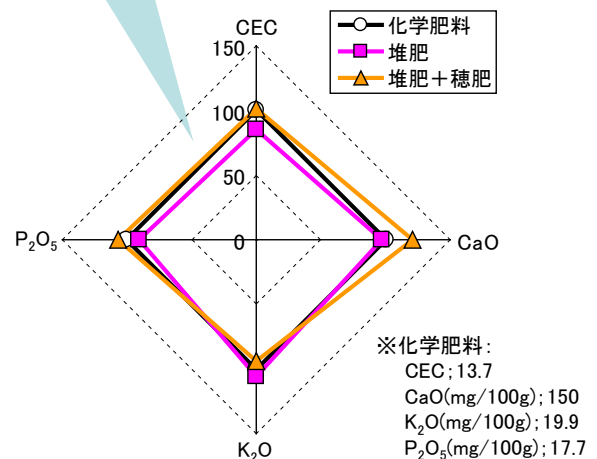


図3 ペレット堆肥5年連用後の作土の化学性 (化学肥料を100とした値)